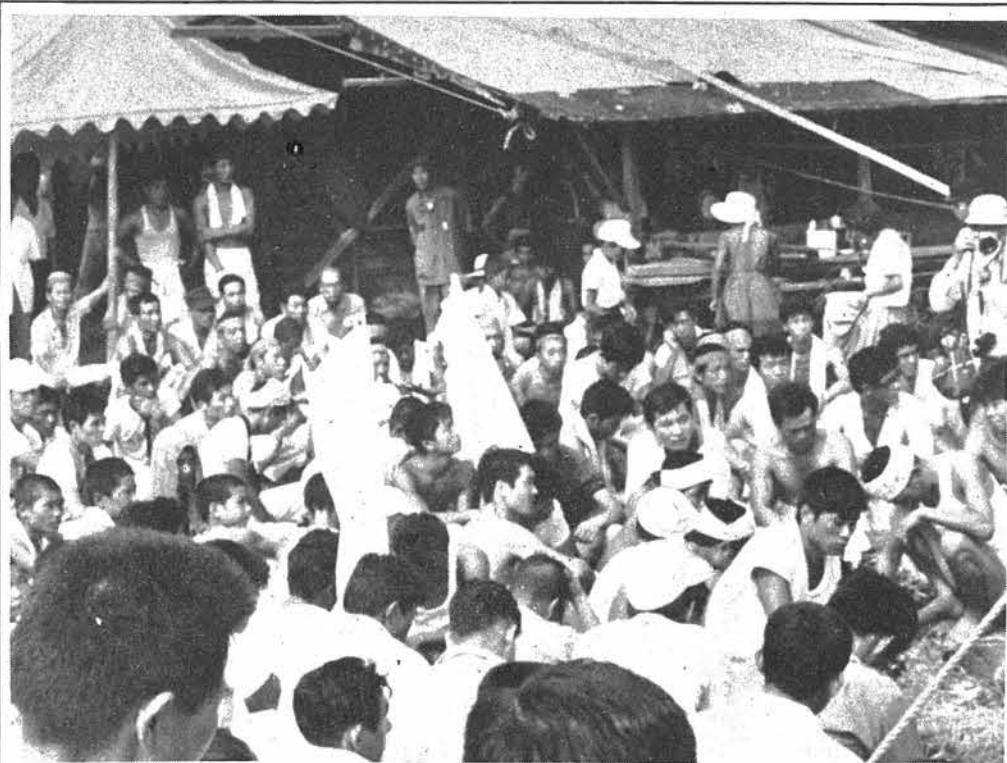




九月四日 ペーロン大会の勢揃い、戦いを前に意気天を衝く。

交通事故を皆無に

町長 齋藤 亀 齢

昔から、こわいもの代表に「地震、かみなり、火事、おやじ」と言っていたが、近頃の新聞に交通事故が頭をもたげている。そこで、おやじの代りに車が入れかわって「地震、かみなり、火事、車」と変えた方がよいと思ふようになった。さて本町においては国道三号線の開通によって、交通量が飛躍的に増大し、現在五千台の自動車が行き交っている状態である。しかし、交通事故のない町津奈木にしたいものである。

町としても児童の通学道路、路線バス及び防犯灯の設置等、当地安全協会と共に無事故に努めている。こんな交通状態であるため、交通事故による死者も激増し、本町においては、昨年の四月から今年八月迄に四人の死者と、数えきれない程の重軽傷者を出している。実に、寒気を催すほどである。傷だけだとしても、後遺症が残って、全快までは相当の時日と経費が伴う。加害者は勿論、被害者においても莫大な損害である。そこで、我々は交通事故について特別な関心を寄せ、此の惨禍を未然に防ぐ、慎重な態度を以て臨まねばならぬ。先ず、運転者側としては(1)運転前に酒を絶対に飲まぬこと (2)交通法規をよく守ること (3)無免許運転をせぬこと (4)腹をたてないことなどである。

通行者側としては、(1)右側通行を必行のこと (2)横断歩道以外にはなるべく通らないこと (3)幼児は必ず手を引いて横断すること (4)心を落つけて右左の車を見定めて通ることなどである。注意事項が山ほどあるが、それは各個人々々の考えねばならぬことで、結局は各人の頭脳に頼る外はない。その点については子は親の、親は指導者の助言を重んじて、おたがい「交通事故のない町津奈木」にしたいものである。

町としても児童の通学道路、路線バス及び防犯灯の設置等、当地安全協会と共に無事故に努めている。こんな交通状態であるため、交通事故による死者も激増し、本町においては、昨年の四月から今年八月迄に四人の死者と、数えきれない程の重軽傷者を出している。実に、寒気を催すほどである。傷だけだとしても、後遺症が残って、全快までは相当の時日と経費が伴う。加害者は勿論、被害者においても莫大な損害である。そこで、我々は交通事故について特別な関心を寄せ、此の惨禍を未然に防ぐ、慎重な態度を以て臨まねばならぬ。先ず、運転者側としては(1)運転前に酒を絶対に飲まぬこと (2)交通法規をよく守ること (3)無免許運転をせぬこと (4)腹をたてないことなどである。



発行所
津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話(津奈木) 24番
編集人 岡松 壮
印刷所 緒方印刷所
八代市通町
電話(八代)代表3118番

財政の話 (三)

助役 松原 兼義

数字のない財政話

先ずひとこと

或る人曰く、公民館報に数字を沢山羅列して財政云々と御託を述べて見ても、おそろしく読まぬでしょう。それは血の巡りの悪い私でも万々承知の助、たゞ心ある人が一人でも、目を通して呉れたら、その方のため満足して書きましよう。とは返事したものの、やっぱり寂しい。なんとなくペンが鈍る。

小学校の児童でも漫画なら親の眼を盗んで、読み耽るが、教科書となると仲々である。試験がこわいから仕方なしに詰込み勉強する。公民館報には試験がないから……とは筆者の目が目だが、と角数字を避けて取り付き易く心掛けたい。

町は物持ち貧乏
問う人あり。町の財産は一体どれ位ありや。さあ困ったぞ。正確に即答出来る人はあるまい。と云えば、冗談ぢやない、何をとばけているか、と叱られよう、が聞いて下さい。

町は非常な分限者ですが、即、金持という見解はどうですかね。所謂その大部分が社会資本に注ぎ込んで仕舞っている訳です。道路これは町有が五十二本、その外目下建設中のもの五橋梁、漁港関係一切、名所旧跡を初め各小中学校、保育園役場や更に干拓地、その他これは純然たる資本に属するが、町有林三百ヘクタール余等々。これを換算集計すると、なんと十億円を遙か突破する物持ちであることに疑いを抱くまい。

人、それぞれに汗水流して労に助むのは蓄財のため。そうしてそれによって生活を安定させる手段というのが一般論である。

町は年々この社会資本を造成するための努力し、而して町民生活の不便を解消し福祉の増進のため万全の策を講ずる義務と責任がある。これがために使う金を投資的経費というが、この社会資本による恩恵は町民一人残らず等しく受ける権利があるので、例えば愚劣な例で恐縮だが、あそここの部落は町会議員さんの押しが強いので何でも出来る。うちの町会議員さんは紳士過ぎていつも後塵を、なんてことは許される筈がない、従ってこの投資的経費は公平に然るも必要となるところへ投入される。

(以下次号へ)

津奈木の歴史

千々岩頼母

七本松
千代塚の七本松は何時の頃からそう言う様になったかは知らない。大きい美しい見事な老松は数百年の歴史を持ち無言の中に私達にいろいろの事を語り且訓えてくれる。而してこの松が一本倒れ一本枯れ今又残った三本の中既に一本は枯れて倒れ倒れてしまったとして残り二本の中一本は又葉が白く枯れて居り残る一本も危ないらしい。老松なので寿命の事も考えられが松喰虫等の被害はまたおそろしいものだ。どんな名木も何時の間にか喰い倒してしまふ。かつて一本の老松が自然倒木し

た事が新聞にのった時熱海にいられた藤峰先生はその記事を見て手紙をよこされ七本松の老松の倒れた事は誠に残念であるがそのあと、たの木のうえたいからと苗代を数千円送って下さった。話合った上松のあとつぎだから松苗がよからうと森林組合の志崎島末氏に苗の御世話をお願いして松崎磨様に託して松と共に思出を残し度い内野の方々と共に千代塚の北側の空地に二本と更に蘇峰先生は銀杏樹が好きなので広場北側に銀杏樹二本を植えた。

十七組参加した
ペーロン大会
ペーロンは日本にただ二つ。台風の前本町をゆり動かした九月四日のペーロンのことを思うと夢のようである。

ただ夢ですまされぬことは、このペーロンが本町の責任において永く持ち続けなければならなくなつたことである。というのは、日本にただ二つのペーロンと、テレビが、ラジオが、新聞が日本国中に固定してしまつたからである。津奈木中わいた。

それも赤崎、大泊のペーロンから、津奈木町のペーロンに拡大したのが始まりである。

参加チーム

今年成績をいう前に、参加をいねばならぬ。なぜなら今年に勝負より参加することに意義があつたからである。(カッコは成績の順位を示す)

〇一般の部

川南(七位) 大泊(二位)

津奈木(六位) 平国(三位)

浜青年(七位) 赤崎B(五位)

千代(四位) 福浦(二位)

小津奈木(八位) 赤崎A(八位)

川北C(四位)

〇中学生の部

大泊(一位) 赤崎(三位)

平国(四位) 川南(五位)

千代(六位) 浜(二位)

病中雑感
齊藤たま
この七月二十四日の朝のこと。二階の階段から不用意にも足をすべらして落ち、脊椎骨折をしまつことと、心にきめ、無理や不自然では生き抜けないことと、つくづく闘病生活のむづかしさを味合いました。出来る限り心静かに、時の流れに添うて日を過ごすことにし、又その時間を私にあたえ頂いたことに感謝しています。好きな読書が出来たり、十数年間ゆくりしたひまも無かつたのに休養が出来たりして、これで精氣を取りもどし、長生きをさせて貰うことが出来るかと思つております。

想いを馳せる時、誰もが懐しさにふるえるでしょう。

津奈木も色々色々と会を重ね乍ら人間形成に少しでもプラスしてゆきたいと考えます。

次全員を紹介致します。

中村 繁喜 (小津奈木)

松崎 充 (川内)

浪崎啓次郎 (津)

岡松三三 (中)

荒川 三船 (上下間)

竹永 益広 (倉谷)

福永 安信 (倉谷)

西川 豊 (古川)

岩崎 広海 (赤崎)

芦浦 勝則 (古川)

鶴野 順一 (津)

伊藤 広行 (赤崎)

山崎 信勝 (中尾)

平野 広光 (平国)

胎動する赤崎青年団

赤崎婦人会 松田しき

標語募集

明るく正しい選挙

九月二十二日青年団からの頼みで、青年と婦人の座談会を開いた。時、団長は、団員の減少にともなう色々の行事を行う上でのなやみを説明した後、ぜひ婦人会の協力を得たいと、そして、二時間半ばかり色々と話合いました。

青年達は、早く現状から脱却して大地に足を踏みしめたい、堅実な歩みをしたいと切望していた。非行問題がとやかくいわれる頃、自ら立ち上ろうとする青年の、意欲に胸があつく思ひがよくなり、今後機会ある毎に話合いをし、一しよに出来る行事は手をたこうとしている。

〃明るく正しい選挙の標語募集
私たちの生活を豊かにするのには、まず政治を正さなければならぬ。政治を正すためには、選挙が明るく正しく行われなければならぬ。そこで、選挙の標語を募集する。募集の要領は、(1)明るく正しい選挙をすすめることに関する標語 (2)官制ハガキに限る (3)応募資格は門外小中学校児童生

公民館報の御要望に応じて津奈木会の現況を御知らせすることに致します。

人間が、究極において求めるものは、「自己の存在価値」とその基礎となるもの「我の自覚」と云った哲学的なものかも知れませんが、しかしその「我」の発生地である故郷の人間が同一社会の中に寄集つたとしても、決して不思議ではないように思ひます。しかし反面その小さなグループが、島国的なものに発展していった、過去の日本人に見られた欠点も、現代の若人には心配はいらないように思ひます。

五井 浪崎啓次郎
堂々と胸を張って故郷を出た。若人達は、明るく、希望に燃え、すばらしいバイタリティーで毎日の仕事を、生活をエンジョイすることを忘れていません。

チッソ石油化学五井工場で、津奈木会が発足したのは、三十九年です。一年に二回の会合を持つことにしていますが、その時に、六、三、三の音感教育の見事を発揮して、楽しい夕べとなります。昨年岡松壮先生が、五井を訪れて下さりましたが、津奈木会の会員が集り、カラー写真で津奈木の発展ぶりを、紹介していただきました。速くに在って故郷に

如何でしょうか。